

図書紹介

◎樹木学 ピーター・トーマス著，熊崎 実，浅川澄彦，須藤彰司訳，築地書館，東京，163 pp. 2001 3,600 円+税 (Trees : Their Natural History, Peter A. Thomas, Cambridge University Press, 2000)

原著の表題から推察されるように，樹木の自然史である。西欧の自然博物誌の流れを汲んだ樹木に関する知識の集大成版であるともいえる。だからといって，内容が古いわけでなく，最新の情報を上手に組み込み，人が「なぜ」，「どうして」，と疑問に思ふような事柄に上手に答えている。その上，文章が魅惑的である。例えば，世代の交代の章では，「種子は宇宙船に似ている。着陸した場所の条件が良くて水に恵まれれば，新しい世界で定住していけるだけのものを，種子は全て取り揃えているからである。」と言う書き出しで始まる。つい吸い込まれて読み続けてしまう。そして，種子の諸性質，すなわち休眠，土壌の種子銀行，散布戦略，発芽，種子の大きさの意味などを経て，無性繁殖へと解説は続いていく。このような調子で，樹木という生命体の日々の営みが平易な文章でわかりやすく解説されている。

本書の内容は，9章からなり，1. 全体のスケッチ，2. 葉—栄養物の生産者—，3. 幹と枝—連結水道管以上の働き—，4. 根—樹木の隠された部分—，5. 次代に向けて—花・実・種子，6. 成長する樹木，7. 樹木の形，8. 世代の交代—古い樹木から新しい樹木—，9. 健康と損傷と死，から構成されている。本書に出てくる樹種は，熱帯林から亜寒帯林まで数百種に及び，原著者の情報収集の幅広さに感心すると共に，これを逐一翻訳された訳者の苦勞が忍ばれる。巻末に訳語—英語—学名の索引が付けられているのは，大変親切である。

森林や樹木にかかわる分野を勉学中の学生はもとより，森林管理にかかわる行政官，森林インストラクターや NGO 活動で植林事業にたずさわる人，さらには森林散策や庭木，園芸に興味のある人にとっても，樹木の生活を知る格好の入門書である。知識をさらに深めたい人には，原著と対比しながら読まれることを勧める。そうすれば，訳本には省略されて掲載されていない引用原典にまでさかのぼって勉強ができる。

(森 徳典)